

～ 糖尿病内科で働く皆様へ ～

「第1回 日本フットケア・足病医学会 富士山セミナー」のご案内

糖尿病を患うと、知らずのうちに血管が傷ついて狭くなったり、神経が傷ついて感覚が鈍ったり、筋肉が萎縮したり、関節が変形したりします。さらに進行すると、網膜症のために視力が落ちたり、腎臓が傷んで動脈の傷みがひどくなったりします。

このように糖尿病は、多くの因子が複雑に絡み合って徐々に足や命をむしばんでいくことから「サイレント・キラー（静かな殺し屋）病」といわれています。

厚生労働省は、2008年の診療報酬改定で、糖尿病フットケアの算定（糖尿病合併症管理料）を新設しました。「糖尿病による足のトラブル」は、重点的な指導で発症を予防できるからです。



糖尿病性神経障害のため靴ずれに気付かず血豆ができた足



糖尿病性神経障害のためタコの下にできた皮膚潰瘍

内科外来で患者の足と向き合う皆さんは、「具体的に何から始めたらいいのか」「足をみる時間が十分にとれない」「家でのケアがあやしい」「医師や専門家に相談するタイミングは？」「糖尿病合併症管理料の算定の仕方は？」などの疑問を抱えることもあるでしょう。

本セミナーでは、「糖尿病患者の足を限られた時間と場所でみる工夫」「自宅でのセルフケアについて患者に伝えるべきこと」「危険な足や傷の見分け方」「外来の具体的な運営方法や連携の工夫」などを学べる総論的な講演や、ライブ・ワークショップをご用意しています。その他にも、足に関する日ごろの悩みをエキスパートに相談できる場、失敗や困難をいかに乗り越えたかについてシェアできる場もあります。

明日から生かせる知識や考え方が身に付き、人脈も得られる本セミナー。奮ってご参加ください。会場で皆様にお会いできることを楽しみにしています。

（日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞申請中）

第1回 日本フットケア・足病医学会 富士山セミナー 会長 花田明香

花田明香 (Hanada Sayaka) ・プロフィール

2000年、山口大学医学部卒業。6年にわたり心臓外科医としての初期教育を受けた後、2006年より血管外科医として透析グループに勤務。足とその歩行を守るための多職種チーム「はながたみ」を立上げ、多くの下肢救済に携わる。2017年より新富士病院外科診療部長兼血管外科センター長。同年、高齢者に対するフットケアを追求するため株式会社ONZiii Actと共に花田メソッドフットケア研究所を立ち上げ、地域への啓蒙活動、人材育成に取り組む。2018年、静岡県東部フットケアハンズオンセミナーを立上げ、フットケア指導士・理学療法士・義士装具士らと共に、足を見立て、危険度を知るための具体的な方法を広めている。

◆糖尿病患者のフットケアに関わる主たる講演履歴

「血管外科医が伝授するフットケア」（2015年11月・愛知）／「リンパ解剖と浮腫の原因と改善法～トレーナーが知っておくべき「むくみの科学」～」（2017年3月・東京）／「糖尿病・透析患者の足にひそむ危険とその対処法」（2018年9月・静岡 他）／「これからはじめるフットケア」（2018年12月・愛知）「足を解く～血管外科医からフットケアナーズへ～」（2019年3月・大阪）

「第1回 日本フットケア・足病医学会 富士山セミナー」概要

●会期——2019年9月7日(土)・8時55分～18時05分

●会場——コンベンションぬまづ (プラザ ヴェルデ)

TEL : 055-920-4100

静岡県沼津市大手町1丁目1-4 (JR沼津駅北口より徒歩3分)

●参加登録費 (当日)

参加区分		当日登録
医師・企業	会員	10,000円
	非会員	11,000円
コメディカル	会員	8,000円
	非会員	9,000円
学生 (学生証提示)		2,000円

●参加方法

事前参加登録の受付は終了しました。当日参加をご希望の方は、セミナー当日、会場となるコンベンションぬまづ (プラザ ヴェルデ)・1F ホワイエ「参加登録受付」までお越しください。登録受付は8時15分～17時となります。

◆セミナー内容・およびテーマ

テーマは「The Team work - Let' s climb to the Mt.Footcare with the map -」。フットケアを登山に例えれば、頂上には「患者の足を守り、歩行を守り、その人らしい人生をまっとうすること」があります。そこに到達するためには、足をみる人々がフットケアに関する十分な知識と経験を持ち、チームワークを重視することが大切です。本セミナーではフットケアに関わる多様な職種の方をお招きし、医療従事者はもちろん非医療従事者にも役立つ講演・企画・展示を行います。

◆日本フットケア学会について

フットケアは元々、日常の大半を靴で過ごす欧米で発達した「足の医学」です。近年の日本において、フットケアはチーム医療として取り入れられると共に、患者のQOL (クオリティ・オブ・ライフ) と医療の質の向上、医療の効率化を追求するための効果的な医療手段として注目を浴びるようになりました。それを受けて、チーム医療によるフットケアの正しい知識の啓蒙・普及を目指し、2003年10月に「日本フットケア学会」が設立されました。

2019年7月1日、当学会は「日本下肢救済・足病学会」と合併し、「日本フットケア・足病医学会」が新設されました。